

統計的機械学習

第八回 レポート ID: 03

37-196360 森田涼介

2019 年 6 月 10 日

ベイズ推定の逐次合理性を示す。データ $x_{1:n} = (x_1, \dots, x_n)$ について、条件付き独立性を仮定すると、尤度は、

$$p(x_{1:n}|\theta) = \prod_{i=1}^n p(x_i|\theta) \quad (1)$$

また、De Finetti の定理より、確率変数の列 $x_{1:n}$ が交換可能であるとき、任意 n に対して次が成立する。

$$p(x_{1:n}) = \int \prod_{i=1}^n p(x_i|\theta) p(\theta) d\theta \quad (2)$$

これより、事前分布を $p(\theta)$ とすると、事後分布は、

$$p(\theta|x_{1:n}) = \frac{p(x_{1:n}|\theta)p(\theta)}{p(x_{1:n})} \quad (3)$$

となる。式 (1) を用いると、

$$\begin{aligned} p(x_{1:n}|\theta)p(\theta) &= \prod_{i=1}^n p(x_i|\theta)p(\theta) \\ &= p(x_n|\theta) \prod_{i=1}^{n-1} p(x_i|\theta)p(\theta) \\ &= p(x_n|\theta)p(x_{1:n-1}|\theta)p(\theta) \end{aligned}$$

ベイズの定理より、

$$p(x_{1:n-1}|\theta)p(\theta) = p(\theta|x_{1:n-1})p(x_{1:n-1})$$

が成立するので、結局、

$$p(x_{1:n}|\theta)p(\theta) = p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})p(x_{1:n-1}) \quad (4)$$

式 (2), (3), (4) から、

$$\begin{aligned} p(\theta|x_{1:n}) &= \frac{p(x_{1:n}|\theta)p(\theta)}{p(x_{1:n})} \\ &= \frac{p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})p(x_{1:n-1})}{\int p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})p(x_{1:n-1})d\theta} \\ &= \frac{p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})}{\int p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})d\theta} \end{aligned}$$

これより、 $p(\theta|x_{1:n-1})$ を事前分布とすると、事後分布は、

$$p(\theta|x_{1:n}) = \frac{p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})}{\int p(x_n|\theta)p(\theta|x_{1:n-1})d\theta} \quad (5)$$

と表すことができ、逐次性を持つことが示された。